

# 不屈の姿勢 映す油絵

## 南木曾の岡田さん 蘇南高に寄贈

南木曾町の岡田政晴さん(七〇)が九月三十日、母校の蘇南高校(同町)に自作の油絵を寄贈した。脳出血を発症して右半身が不自由だが、右手の指を使うなどして描いた「母校に栄誉あれ」(F6号)。同校の玄関から真正面にそびえる南木曾岳(一、六七九㍎)が描かれており、同校の発展と生徒の活躍を願う気持ちが入り込められている。

岡田さんは中学校の社会科教諭として教壇に立ち、二〇一二年に福島中(現木曾町中)の校長を務めて退職。その後は南木曾町教育委員に就任し、蘇南高校でも五年ほど非常勤講師を務めた。

絵を描くのが趣味だったが、在職中の二〇年六月に脳出血を発症。しかし、



絵画寄贈式で生徒にエールを送る岡田さん(中)。左は妻早苗さん、右は寄贈作品を手にする小川校長＝南木曾町の蘇南高で

ハビリに取り組んで退院して約半年後から創作活動を再開し、左手で右手を支えながら右指やペインティングナイフで描き、今年八月には大桑村で四十四点を展示する個展も開催した。

今回の作品は同展にも展示され、個展終了後に岡田さんから寄贈の申し出があったという。

絵画の寄贈式は終始業式に続いて開かれ、生徒約百五十人も出席。小川幸司校長に作品が贈呈され、生徒会長の亀山ちひろさん(二一年)が「南木曾岳の雄大さが伝わります。後輩として諦めない姿勢を学ばせてもらいました」と感謝の言葉を述べ、花束を手渡した。

妻早苗さん(六〇)と一緒に寄贈式に臨んだ岡田さんは「新しい精神で、蘇南高校を盛り上げてほしい」と生徒らにエールを送った。同校は作品を玄関に飾ることにしている。(石川浩)